

■ ウェンドル&ラング

年間製作台数：約2400台
働く人の数：オーストリア本社工場20名、
中国協力工場寧波楽器800名



小型グランドピアノ
プロモデル『G-151』

Wendl & Lung

History▶1890年、ウィーンでステファン・ラングがヨハン・ウェンドルとともにウェンドル&ラング社を設立。1926年に生産されたピアノの数は1000台を超え、全ヨーロッパと近東に普及する。その後、ステファニー・ラング（結婚後の姓はベルツキー、歴史上2人目の女性ピアノマイスターとなった）、アレクサンダー・ベルツキー、そして現在の4代目、ピーター・ベルツキーへと受け継がれる。



ウェンドル&ラング社1920年代の様子

株式会社アサヒピアノ
<http://www.asahipiano.co.jp>
☎053-434-9636

ウェンドル&ラングは、1910年にウィーンで創業。多くのピアノストの要求に応えながら、100年におよぶ歳月をかけ繰り返し改良を重ね、ピアノ製造を続けてきた老舗メーカーだ。ステファン・ラングが創業し、一人娘、ステファニー・ラング（結婚後の姓はベルツキー）に引き継がれた。彼女は当時の女性としては非凡な業績を成し遂げたとさえ言えよう。その後もこの家族によって代々その技術が受け継がれ、今は、4代目がその伝統的なウィナー・トーンを守っている。

その結果、2005年にはウィーン楽友協会「黄金のホール」に納入され、また2006年にはデンマーク王国によってマルグレーテII世女王に献上されて王室用ピアノとなるなど、ヨーロッパでは現在も一流の世界で認められ、愛され続けている。

日本では、とくにコンパクトグランドのシリーズの人気の高い。弦の短さからどうしても音色が乏しくなりがちなベীগランドの機種にあつて、コンパクトながら充分なボリュームとパワーがあり、音色も豊かだ。最近では、専門的にピアノを弾く人でも満足できるような小型グランドの「プロモデル」を発表し、そのうえ価格はアツプライト並みの手頃さということでもますます需要が増えそうだ。

日本の顧客向けには、基礎組立を終えた状態で輸入されたピアノを、総代理店のアサヒピアノが日本の環境に合わせたシーズニングをほどこしたのち、熟練技師による最終仕上げをおこなって出荷している。

目指されているのは、「迫力ある音と繊細さをかねそなえた音づくり」（アサヒピアノ、呉英洙社長）。幅広い表現力のある、魅力的なコンパクトグランドピアノだ。